

売春のない日本の建設へ
感動の愛情物語 !!

文 部 省 選 定
東 京 都 教 育 委 員 会 選 定
全 国 地 域 婦 人 団 体 連 絡 協 議 会 推 薦
他 諸 団 体 推 薦



第三回教育映画コンクール最高賞

愛することと

生きること

全五巻

母と子の
監修 厚生省

桜映画社作品
後援 全国社会福祉協議会
推薦 売春対策国民協議会

愛することと 生きること

監督 木村 莊 十 二

出演 俳優座・東京芸術座・舞芸

推せん の 言葉

安 田 巖
(厚生省社会局長)

「売春防止の啓蒙映画は、時節柄必要を痛感されていたが、この映画の誕生はその渴を大いに満たしてくれたものかと思つていじめ、私も映画を見るまでは、固く禁じていた。この映画が、婦人相談員、婦人寮、社会福祉事務所、民生委員等施設がよい活動の場として、関係者には特に、人間の愛情をもつて、献身的に活動する者、身近かな人々に感じられ、好感もてる。俳優も、演技がごく自然で、身近かな人々に感じられ、好感もてる。人間の更生にも役立つとおもう。また、世間一般の人々にも広く見て頂きたい。」

雨 あ が り

菅 原 通 済
(売春対策審議会会長)

「こうした映画の製作ほど困難なものはない。子算にも、かなり苦しむ、而も興味がある注文で制約される上に、かなり苦しむ、試写に望んだが、すっかり感激させられた。かなり苦しむ、而も興味がある注文で制約される上に、かなり苦しむ、試写に望んだが、すっかり感激させられた。かなり苦しむ、而も興味がある注文で制約される上に、かなり苦しむ、試写に望んだが、すっかり感激させられた。」



ものがたり

物語は、十九才の売春婦山田たか子がドヤ街の一室で自殺するところからはじまる。——彼女は、地検からの連絡で訪ねてきた婦人相談員にあやうく救われたが、病気のうえ妊娠していた。優生保護法の適用が必要だった。しかし、詐欺罪で刑務所に入っていた彼女の若い夫は、なぜか同意を拒んできた。

山田たか子は、もと郷里でバスガールをしていたが、若い鉦夫だった夫と知りあいて、親の反対を押し切って恋愛結婚し、間もなく夫の失業のために上京したのだった。貧しい二人は盛り場に近いドヤ(簡易旅館街)に落着いたが、何の技術も持たない田舎出の若い男に簡単に職が見つかる筈もなかった。もぐり売春婦の群がる環境も悪かった。二人は忽ち食いつめて、たか子は街娼に落ち、夫はポン引きをするまでになった。……

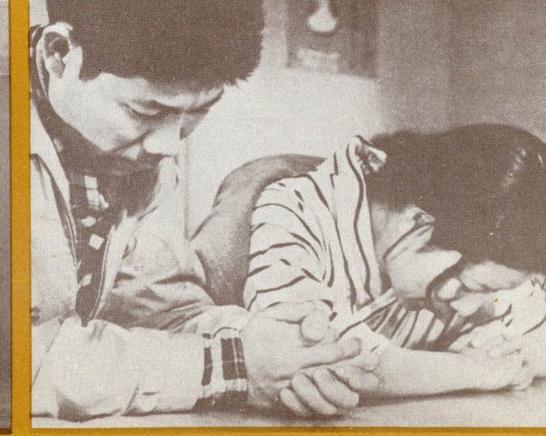
入院後のたか子は、やさしい相談員や民生委員の愛情にはげまされて、男と別れて一人立ちする希望をいだきはじめた。が、夫が執行猶予で意外に早く釈放されると、若い女の心はやはりかつて愛し合った夫に傾くのがあった。それから、婦人相談員と、食べるために妻に売春させていた男(夫)との、激しい対決がはじまった。

怠惰な夫も、妻が自分の留守仲間と同棲していたことを知ると、肉体と愛情の淵に苦しむのだった。相談員は、妻の貞操を失わせたものは何か、誰がそうさせたのかを、男に考えさせた。肉体と愛情とは、この男が都合よく考えているように別々のものではない。愛情を育てるためには、一日一日の生活を大切に守らなければならぬ。

こうした相談員の言葉に、男(夫)も次第に目ざめ、民生委員にもはげまされて、必死の就職さがしはじまった。努力が実って、男はようやく或る製材工場に勤めることが出来て、今では手を豆だらけにしてささやかな将来に希望をもち、たか子も器用な手先を生かして洋裁店で働き、一と部屋借りて、交代で炊事をするなど、貧しいながらも楽しいわが家の生活を送るようになった。

しかし、相談員の前には、問題はまだまだ山のように積っているのだった。

(特別頒布価格九〇、〇〇〇円)



スタッフ

製作……山高しげり

脚本……村山英治

脚本……木村莊十二

監督……佐野美津男

撮影……木村莊十二

照明……長瀬直道

美術……永井俊一

音楽……飯田公夫

録音……岡田和夫

編集……大橋鉄也

編集……岸富美子

助監督……島崎嘉樹

製作主任……片桐直樹

キャスト

山田たか子……小沢弘子

山田実……左右田一平

峰岸相談員……平松淑美

田中相談員……内田札子

婦人相談所々長……野々村潔

国光民生委員……山岸美代子

製材所の主人……陶隆

加瀬太一郎……倉田地三

その母……安芸季子

ドヤの女将……清洲すみ子

やつれた女……川上夏代

裁判長……菅原通濟

(特別出演)

製作の意図

売春防止法全面施行後、もはや一周年を迎えるが、従業婦の保護更生については、一そうその対策を強化する必要がある。また、地方に於ては、転落の未然防止が大切な仕事である。

これらの運動は、今後も気ながに行われ、一般の理解と協力を深めてゆくことだが、このための、講演会、座談会、小団学習に利用する啓蒙映画として、この映画は製作された。

これまで素手でたたかっていた啓蒙運動が、新鋭の機関銃を手に入れるようなものである。全国隅々までも持つて廻って、大いに利用して頂くことが出来れば幸いである。

長さ五巻(映写時間約五十分)
 十六ミリ版
 特別頒布価格 十千110,000円
 厚生省生活課又は桜映画社へ直接御申込の場合に限る。

「愛することと生きること」試写の反響

すばらしい映画でした。とかく役所くさくなりがちなテーマであるのに、ひしひしと現実感を見る者に訴えます。それでいて、まだ残されている大きな問題を、ちゃんと訴えているのですから申し分ありません。演技もよく、多くの婦人会でみてもらいたいと思いました。

素晴らしい構成！ 教訓的な押しつけがなく、心から我々にやらねばならぬことを感じさせ、考えさせる。ラストがとくに良いと思いました。

売春のかなしき、女性のかなしき、私たち女性みんなが共同の責任として、この問題を考えるすばらしい作品！

このような問題の作品は、見ていていやな感じのものになりやすいのですが、「愛すること」はサラッと描かれて、深い感銘と良い後味を残してくれる。

非常によくまとまった映画で、最後に別な途を行った二人の女を出したところも効果的であったと思います。

桜映画社の最近作

僕わかつてる 五巻

(中学生の心理)

おやじの日曜日 三巻

心と病気 二巻

(ストレスと人生)

株式会社 桜映画社

東京都中央区八重洲3～5 横町ビル
電話(27) 7611・7612 番